

道徳の授業における評価の工夫 ～生徒の内面の変化をみとる評価方法について～

那覇市立小禄中学校教諭 奥平 雄一

テーマ設定理由

様々なメディアを通じて凄惨な事件が連日報道されている。このような社会の現状を受け、学校教育に対し、生徒の道徳性を育成する必要があるとの声が高まっている。このような急激な社会の変化の中で、中学校学習指導要領解説道徳編でも、学校における道徳教育で特に考慮しなければならない事柄を5つ挙げ、道徳教育の必要性や重要性が強調されているところである。特にその5つ目では、「学校における道徳教育は、(中略)道徳的实践力が育成されるよう一層充実されなければならない」としており、より効果的な道徳教育の在り方を模索することが急務であるといえる。

その1つの方法として道徳教育のかなめとして位置づけられている「道徳の時間」を充実させることが挙げられる。つまり、魅力的な資料を開発し、授業展開を工夫して生徒の心に響く授業を実践することによって、生徒の道徳的価値の内面化・充実化を図ろうとするものだ。これまで私も道徳の授業においてこのような努力をしてきたつもりであるが、生徒の行動を道徳的实践へとつなげるという点で、それだけでは不十分なように感じられた。つまり、1時間の授業のねらいが達成されても、それをその後の実生活で生かせるような手だてを担任としてもたなければ、道徳的实践へと結びつきにくいからだ。授業で価値の自覚を促し、その成果を道徳的实践へとつなげるために、授業によって生徒のもつ価値がどう変容したのか、どう成長したのかといった、生徒の内面の変化をみとるための評価が必要である。そして、そのみとりを手がかりとして、生徒の行動を観察し、指導の手だてを探ることによって、個に応じた的確な指導が可能になるのではないだろうか。

そのような評価方法を確立することによって、道徳の時間と学級での活動とが有機的に結びつき、生徒の行動変容への手だてとなる指導の在り方を導き出せるきっかけとなると考え、本研究テーマを設定した。

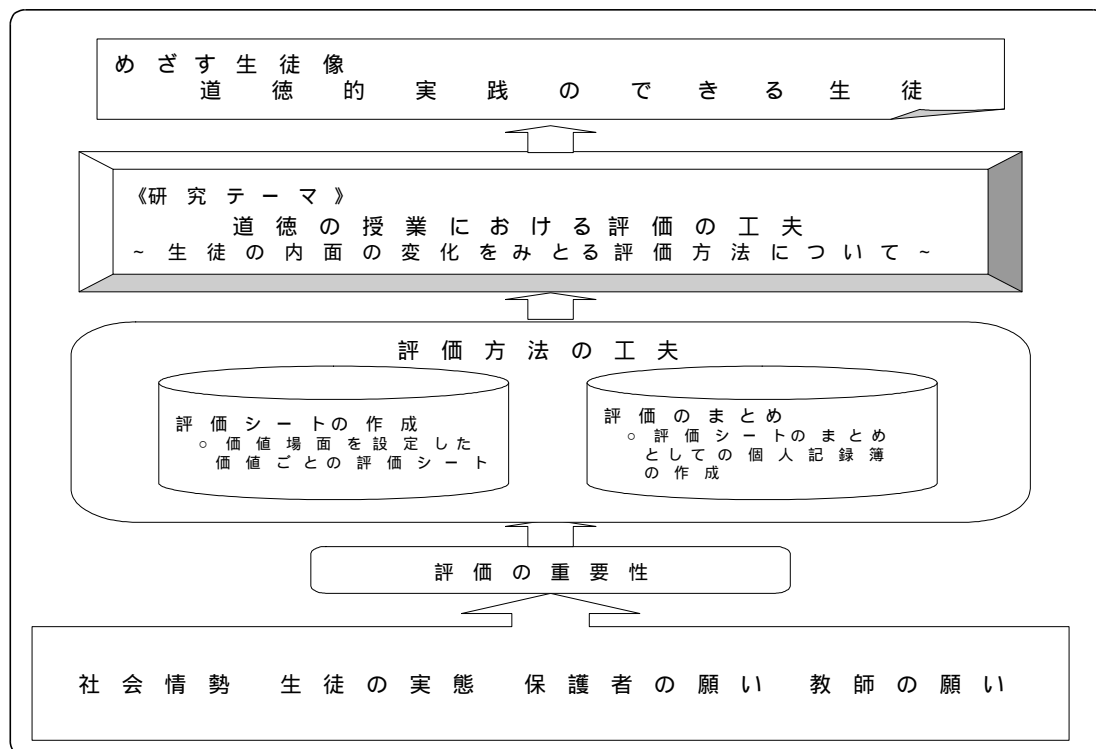
研究目標

道徳の授業において、生徒の内面の変化をみとるための評価の方法について研究する。

研究方針

- 1 授業前後で生徒の内面の変化をみとることができるような評価シートを作成する。
- 2 授業後の評価を授業の積み重ねとして、価値項目別にまとめることができる個人記録簿を作成する。

研究構想図



研究の内容と方法

1 本研究における評価方法の視点

道徳の授業の評価方法は、多く存在する。学習指導要領解説道徳編では、道徳の時間の評価の方法として「観察による方法」「面接による方法」「質問紙による方法」「作文やノートなどによる方法」「その他の方法（事例研究法など）」の5つの方法が紹介されている。そして、これらの方法について「一長一短があるので、それぞれの特徴を生かして幾つかの方法を併用することが望ましい」と述べられているように、道徳の授業における評価は、その授業形態や資料の内容などに合わせて、最適な評価方法を授業の場面に応じて併用していく必要がある。そうすることで授業1時間1時間のねらいの達成度をみとることが可能になる。

本研究では、そのような評価のあり方をおさえながら、授業のねらいが達成されたかどうかだけではなく、授業後、生徒の内面の変容をみとることができる評価方法の確立を目的としている。また、1時間1時間の道徳の授業をつながりのあるものとしてとらえ、年間35時間の授業の評価の積み重ねを生徒の指導に生かしていきたい。そのために、どの授業でも使用できる統一した評価シートとそれをまとめることによって生徒個人の全体像をとらえることができるような個人記録簿を作成したい。また、道徳の授業での生徒の価値観の高まりを、評価によって実際の生活場面へと転換できるような工夫を行いたいと考えている。

2 道徳の授業をかなめとした指導の流れと評価

道徳の授業をその準備から事後指導までの流れとして図に表すと、図1のようになる。つまり、授業準備段階の診断的評価で生徒の実態をおさえ、価値分析をし授業での指導方法を探る。そのことにより、生徒の内面がよりよい方向へと変容するような手だてを講じ、指導

方法の工夫・改善をはかることができる。そして、授業によって自覚された価値を道徳的実践へとつなげるように、事後指導を行う。

年間を通したこのような指導の連続性が、生徒の道徳性を高めることにつながっていくと考える。この指導の流れの中で図中～すべての場面で指導の有効性と生徒への指導の達成度をみるための評価が必要であるが、本研究では、特に授業前の図中の場面と授業後の図中の場面で同じ内容の評価シートを取り、その回答の結果を比較することによって、授業後の生徒の変容をみとりたい。また、授業後にこの評価シートの結果を個人記録簿に記入し積み重ねていくことで、生徒を全人格的にとらえ、指導に生かしていけるよう工夫を行いたい。

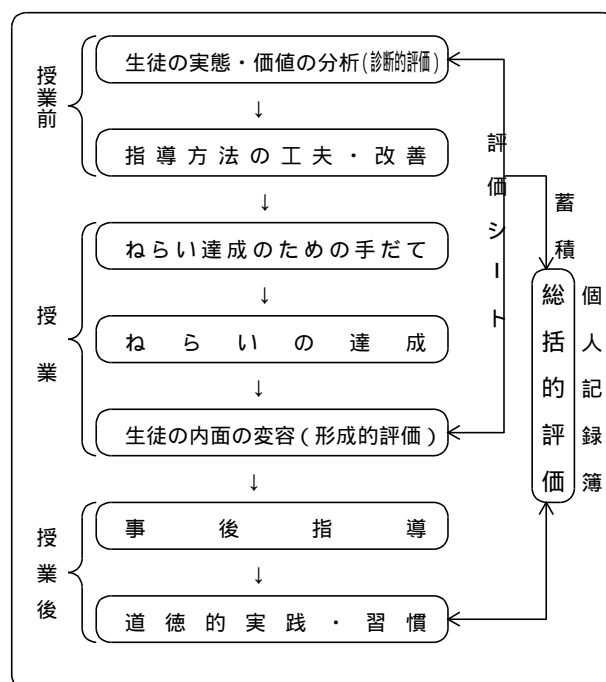


図1 指導の流れと研究における評価の位置づけ

3 評価シートの形式とその活用方法

(1) 評価シートの形式

評価シートは図2のような形式で作成する。

図2中A(場面)では、授業のねらいとする価値項目と関連のある生活場面を設定する。この際、授業で扱う資料の内容とは異なる場面を設定するようにする。例えば、検証授業での主題である視点4-(3)「よりよい社会の実現」での評価シートにおける場面は下のように設定した。

場面

私たちの住む社会には、解決しなければならないたくさんの問題があります。

例えば、戦争、環境問題、差別や偏見、人口の増加、食糧問題、国家間の貧富の差...挙げたらきりがありません。

授業では「平和な社会をめざして」という主題の下、戦争の場면을資料で取り上げ、ねらいに迫るようにしたが、評価シートの場面では、授業で扱う資料の内容より問題の範囲を広げて生徒に提示している。これは、生徒が生活の中で接する様々な情報を、授業で学んだ価値観や視点でとらえさせることを目的としている。そうすることで、授業の内容と

あなたならどっち？

()年()組 氏名()

場面

A

あなたの考えに近いのは下の(1)～(5)のどれですか？

(1) {

(2) {

(3) { B

(4) {

(5) }

上の番号を選んだ理由を書きなさい

C

図2 評価シートの形式

生徒の生活が密接に結びつき、道徳的実践へとつながっていく可能性が高まるであろう。

評価シートにおける場面に対し生徒がどのような考えをもっているか、あるいはどのような行動をとるのかといった思考・行動パターンを選択肢として示したものが図2中Bである。前述の「よりよい社会の実現」で設定した場面に対しての選択肢の例は図3の通りである。生徒は評価シートにおいて設定された場面から、自分の考えに最も近いものを(1)~(5)から選択することになる。

- (1) その解決のために、自分の立場で何かできることがあれば実行したいと思う。

(2) 自分なりに、どうすれば良くなるのか考えてみたい気がする。

(3) 科学者や政治家が真剣に話し合って、解決してほしい。

(4) 問題が大きすぎて、解決するのは無理。考えるだけムダ。

(5) 自分の住んでいる日本がそうならなけばいい。

図3 評価シートの選択肢

この選択肢は道徳的に望ましいと思わ

れる思考や行動の順に並んでおり、授業前後の生徒の選択した番号の相違で生徒の思考の変化が見てわかるようにしてある。

図2中Cでは、図2中Bで選択した番号の理由を記述させ、価値場面に対する思考・行動が生徒の内面のどのような思いから発生しているのかをみとることができるようにした。

(2) 評価シートの活用

評価を行う時期

評価は、授業前と授業後に行うが、授業前は授業の1週間～10日前に行うようにした。期間をおいてしまうと、授業後の評価シートにおける回答の変化が、授業の影響を受けて変化したものなのか、授業までの長い期間の中で何らかの思考の変化があったのか判断がつかず、授業の評価としては適当ではないと思われる。また、評価シートを行う時期が授業に近すぎると、評価シートの場面が鮮明に残り、授業での生徒の思考過程の妨げになる可能性が考えられる。したがって授業前の評価シートを行う時期は授業1週間～10日前程度が適当であると考えられる。また、評価シートへの書き込みは、5分前後で行うことができるため、朝の会や帰りの会を利用して生徒に記入させるとよいだろう。

次に授業後の評価については、できるだけ授業後すぐに行った方が適当だと思われる。授業の余韻が残っているうちに評価を行うことによって、生徒は授業の中で自分自身で考えたことを評価シートの場面に転換して考えられるようになるであろう。それは、生徒の価値に対する意識が授業の場面だけでなく、生活場面へと広がっていくことにつながる。評価を通して、生徒自身に価値の意識づけをさせることによって、授業の成果を事後指導へと生かしやすくなると思う。

評価シートの回答の変化のみとり

A 選択番号の変化について

評価シート(図2)において選択肢(1)~(5)(図3)は、より望ましいと思われる行動(思考)の順に列挙しているため、授業前より授業後の選択番号が低い数字の方へ変化していれば、生徒は授業の影響を受け、思考がよい方向へ向かっているといえる。逆に授業後に生徒の選択した番号が大きい数字の方へ変化した場合は、それを思考の後退と判断するのは早計である。授業において様々な手だてを用いてねらいにせまり、生徒の内面を揺さぶったとき、生徒は深く自分の内面と向き合うことで、自分の弱さや未熟

さ、力のなさに新たに気づくことがある。そうすると、評価シートの選択番号が下がる（大きい番号へ移動する）こともありうる。この場合、評価シートの理由の欄や授業のワークシートを分析し、回答の変化の根拠をみとめる必要がある。

イ理由の変化について

授業後の評価シートの選択理由の変化を学習指導要領に示されている道德性の発達という視点から、図4のようにとらえたい。評価を行う前に図4中a～dのどの視点で評価結果をみとめるのかを明確にし、生徒の思考がよりよい方向へ変化するように授業内容も工夫する必要があるだろう。

また、この理由を記す欄は、選択番号と密接に関わっているため、選択番号の変化と併わせてみとめる必要がある。

評価シートの授業への活用

- a 他律的な考えから自律的な考えへと変化しているか
- b 結果重視から動機をも重視する見方へと変化しているか
- c 主観的な見方から客観性を重視した見方へと変化しているか
- d 一面的な見方から多面的な見方へと変化しているか

図4 選択理由の変化をみとめる視点

番号	授業	回答の変化	理由の変化
1	前	4 3 2 1	理由はない。
	後	5 4 3 1	→自分なりに考えてみたい。
2	前	5 4 3 2	いろんなところが平和でいてほしい。
	後	5 4 3 1	→自分も国民。問題はきちんと解決したい。
3	前	5 4 2 1	自分一人では無理だが、できることは実行したい。
	後	5 4 3 1	→自分に何ができるか分からないが、考えてみたい。

図5 クラスの実態をとらえるための評価シートのまとめ

生徒の出席番号順に並べた図5のような表に、授業前の評価結果を記入することによって、授業のねらいとする価値に対するクラス全体の実態をつかむことができる。そして、授業のねらいとする価値に対する生徒の意識の深さやどのように思考しているかを事前に把握することで、それを授業の展開に生かすことができ、生徒個々に対しては意図的発問を有効に行うことが可能となる。そして、図5のまとめに評価シートの授業後の結果を加えることにより学級全体の回答の変化を一覧としてみることができ、今後の授業改善の視点をつかむこともできるだろう。

また、評価シートで設定した「場面」が価値葛藤場面であり、生徒の選択番号にもばらつきがあり、その理由も様々な視点から記されている場合は、評価シートにおける生徒の回答自体が、道德の授業の資料になり得るであろう。

4 個人記録簿の形式とその活用方法

(1) 個人記録簿の形式

図6は個人記録簿である（図6中B・Cは、図2中B・Cに対応している）。授業前後に行った評価の結果をこの個人記録簿に書き込み、評価を積み重ねていくことによって、生徒個々の視点ごとの価値項目に対する傾向をみることができるようにしてある。

まず、授業前後に生徒が評価シートで選んだ選択肢の番号の変化（図2中B）は、個人記録簿「回答の変化」に記入する。次に、生徒が選択した理由についての授業前後の内容

の変化（図2中C）を「理由の変化」の欄に記入する。次に、授業で使用したワークシートでの生徒の意見や考えで価値項目と関連する言葉があれば「ワークシートから」の欄に記入する。最後の「備考」の欄には、その価値項目の視点から、道德の授業外における生徒の様子や考え得る生徒への指導の手だてを記入し、今後の指導へ生かすことができるようにした。

このように、評価シートを使って評価を行うことで道德の内容項目ごとの生徒の現状や変容をとらえることができ、それを個人記録簿に記入していくことを積み重ねていくことで、生徒を全人格的にみとることができるのではないかと考える。

個人記録簿（評価シートのまとめ）						
（ ）年（ ）組 氏名（ ）						
視点	内容項目	授業	回答の変化(B)	理由の変化(C)	ワークシートから	備考
4 主 と し て 集	(1)自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	前	5 4 3 2 1			
		後	5 4 3 2 1			
	(2)法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。	前	5 4 3 2 1	よいルールは守る	ルールに無関心ではない	個人面談
		後	5 4 3 2 1	ルールについて考えたい	考えたい	必要
	(3)公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。	前	5 4 3 2 1	自分では無理	問題をもっと	体験活動
		後	5 4 3 2 1	自分で行動する	考えたい	資料提供

図6 個人記録簿

(2) 個人記録簿の活用

学習指導要領解説道德編の「内容のとらえ方」によると、学習指導要領に定められた内容項目は「生徒自らが道德性を発展させていくための窓口」とであるとし、「各内容項目を生徒の実態を基に把握しなおし、指導課題を生徒の側から具体的にとらえ、生徒自身が道德的価値の自覚を深め発展させていけるよう、実態に見合った指導をしていくことが大切である」としている。その視点から、個人記録簿の活用について考えることが必要である。授業ごとの評価の結果を個人記録簿に記録し、それを積み重ねていくことによって、道德の内容の4つの視点から各生徒の傾向をとらえることができる。そして、学級担任は、個人記録簿によって明らかになった生徒の内面の実態から、生徒それぞれに合った指導の手だてを探っていくことになる。例えば、内容の視点4「主として社会や集団との関わりに関すること」の部分で低い傾向を示す生徒に対しては、集団活動の場を意識的に設けたり、集団の中で責任ある仕事を任せたりといった具体的な手だてを学級担任としてもつことができる。

また、個人記録簿の下欄には、「評価のまとめ」という項目を設けた。ここには、1年間のまとめとして、個人記録簿から読みとれる生徒の内面的な特質や成長を記述するようにする。そして、この個人記録簿を次の担任へ引き継ぐようにすれば、さらに継続的で一貫性のある生徒の指導も可能になるだろう。このように、個人記録簿は、生徒理解のための有効な資料となり得るため、活用の方法は多様に広げることが可能だと思われる。

授業実践

1 主題名

「平和な社会をめざして」 視点 4 - (3) (よりよい社会の実現)

関連項目 3 - (2) (生命の尊重) 4 - (10) (国際理解)

2 資料名

『IMAGINE』 ジョン・レノン

『2003 年イラク 僕が見た戦争』 写真/文 高橋邦典

『子どもに伝えるイラク戦争』 広河隆一・石井竜也

3 主題設定の理由

(1) 価値観

2001 年 9 月 11 日のアメリカで起きた同時多発テロは、世界の人々に大きな衝撃を与えた。その後、アメリカのアフガニスタン侵攻、大量破壊兵器をめぐって国連決定なしのイラク攻撃が起こり、悲惨な状況が今も続いている。同時多発テロからイラク戦争までの経過の中で、多くの人々が様々な立場からその見解を示したが、1 つ言えることは、2 度の大戦を経験したにもかかわらず、人類は、今だに価値観の相違の解決策として、暴力（戦争）に頼ってしまうことがあるということである。それでも希望を失わず、平和でよりよい社会を実現するために、私たちは、メディアを通じて日々流される世界の出来事を真摯な姿勢で見つめ、物事をよりよい形で解決していこうとする態度を常にもつ必要がある。そのためには、戦火の中に生きる人々の悲しみや苦しみを自分のこととして感じとることができる心をもたなければならないと考える。そのことを土台として、生徒達に、理想とする社会の実現に向けて前向きに行動することの大切さを実感させることを目的として、本主題を設定した。

(2) 生徒観

中学生は、ニュース等で流される世界の出来事について、真剣にとらえて考えようとする姿勢に乏しい。時には、軽率にその出来事をちゃかしたり、冗談として話題にするような場面もみられる。しかし、ほとんどの生徒が、戦争や差別といった平和を脅かす出来事を「絶対悪」としてとらえており、どの生徒も戦争がなくなる現実に対し、大なり小なりの憤りを感じていると思われる。本時では、「想像力」という言葉をキーワードにして、国際社会で起こっている出来事を単なる情報としてとらえるのではなく、渦中の人々の思いを知ろうとする態度が大切であることを実感させ、その共感的態度が平和な社会を実現していくための大切な姿勢であることに気づかせたい。そうすることで、社会の様々な矛盾や問題を前向きに解決していこうとする態度を育てたい。

(3) 資料観

本時では、3 つの資料を使ってねらいにせまりたい。まず、音楽資料である『IMAGINE』は、1990 年、作者であるジョン・レノンの追悼式が国連で行われた際に、世界 130 カ国のラジオ局を通して同時放送された曲である。これは、多くの国連関係者がこの曲に人類の未来の夢が託されていると考えたからだそうだ。この曲は、今もなお、人々の心に深く静かに平和の尊さを訴えかけている。また、他の 2 つの資料『僕が見た戦争』『子どもに伝えるイラク戦争』は、写真集であるが、戦争の写真だけでなくそれを目撃したフォトジ

本時では、『IMAGINE』を導入と終末で提示し、授業の雰囲気をつくる目的と本時のキーワードである「想像力」という言葉に結び付けて扱いたい。また、展開で扱う2冊の写真集は、この本に掲載されている写真や言葉をより効果的に提示するためにプレゼンテーションソフトを使って、生徒の心に訴えかけ考えさせたい。

身近な問題であるとしてとらえさせようとした。その結果、生徒は真剣に思考している様子で、生徒それぞれが自らの言葉で発問に答えていた。それを受け、発問(2)で想像することの真意に迫ったところ、「戦争で苦しんでいる人たちの声を心で聞く」とか「戦争の恐ろしさを聞き取る」といった発言があり、ねらいにそって考えを深めていった。

また、授業前の評価シートにおいて(4)・(5)を選んだ生徒は4名いたが、どの生徒も真剣に授業に取り組んでいた。展開5でそのうちの2人に意図的に発言を求めたが、自分なりに考え前向きに発言していた。

授業の雰囲気、生徒達の様子、ワークシートの結果から授業のねらいはほぼ達成されたとと言える。

結果と考察

1 授業前後の評価シートの結果

表1を見てわかるように、授業前に(1)・(2)を選択した生徒は22人に対し、授業後27人に増加している。また、(3)～(5)を選択した生徒の数は、12人から6人に減少している。このことから、授業を受けることによって学級全体として、生徒の道徳性がよりよい方向へ向かっていることがわかる。また、今回の学級全体の結果に性差はみられなかった。授業で扱う価値項目によっては、結果に男女差が出ることも考えられる。

検証授業において、授業前後の評価シートの選択番号の変化は表2のようになった。表2中の「大→小」は、授業前と授業後に行った評価シートで選択番号が大きい数字から小さい数字へと変化したことを表している。つまり、授業前と比べ、14人の生徒の道徳性が望ましい方向へ向かったとおおむね言える。

また、評価シートの「理由」の欄で授業前後のコメントを比べたとき、この14人中9人(男子5人・女子4人)の生徒が授業後、他律的な見方から自律的な見方へと変化していることが確認できた(図7)。

表2における「小→大」は、前に説明した「大→小」とは逆の意味であり、選択番号だけを見れば、授業後、道徳性が望ましくない方向へと変化したと判断できる生徒が3名いる。

その理由の変化は図8の通りである。

表1 授業前後における選択肢の選択状況

選択肢	授 業 前			授 業 後		
	男	女	計	男	女	計
(1)	6	5	11	8	6	14
(2)	3	8	11	4	9	13
(3)	4	4	8	3	2	5
(4)	1	0	1	0	0	0
(5)	1	2	3	0	1	1
計	15	19	34	15	18	33
備考	(欠席2)	(欠席1) (複数2)		(欠席1)	(欠席0) (複数1)	

*「複数」…複数の選択肢を選んだ生徒の数

*授業前に欠席した生徒2名は授業後の結果から除いてある

表2 授業前後の選択番号の変化

	選 択 番 号 の 変 化				計
	大→小	変化なし	小→大	その他	
男	8	6	1	1	16
女	6	7	2	3	18
計	14	13	3	4	34

単位(人)

○ Aさんの例		授業前		授業後	
選択番号		選んだ理由		選択番号	選んだ理由
5		特に理由はない		→	2 自分なりに考えて、どうすればよくなるか考えてみたい
○ Bさんの例		授業前		授業後	
選択番号		選んだ理由		選択番号	選んだ理由
3		自分たちにはどうしようもないので専門家に話し合ってもらえない		→	2 最初からあきらめたら何もできない。問題が大きすぎても自分で考えることをしたい

図7 選択番号が大から小へ変化した生徒の理由の変化の例

○ Cさんの例		授業前		授業後	
選択番号		選んだ理由		選択番号	選んだ理由
1		考えるだけでなく何をするかが大事		→	3 科学者や政治家は理論ばかりで実行する人が少ない
○ Dさんの例		授業前		授業後	
選択番号		選んだ理由		選択番号	選んだ理由
1		できることがあったら実行したい		→	2 まずは何ができるのかを考えたい

図8 選択番号が小から大へ変化した生徒の理由の変化の例

表2における「その他」は、授業前の評価シートで複数の選択番号を選んだ生徒である。複数の番号を選んだ生徒の理由の変化は図9である。

○ Eさんの例		授業前		授業後	
選択番号		選んだ理由		選択番号	選んだ理由
3 1		ゴミ拾いは自分でできるがあとは専門家に任せる		→	2 専門家だけが話し合っても意味がない。みんな一人一人が考える必要がある
○ Fさんの例		授業前		授業後	
選択番号		選んだ理由		選択番号	選んだ理由
3 1		一人で解決するのは無理なので自分たちでできることをやればいい		→	2 自分に何ができるのかはわからないので、考えたい

図9 選択番号を複数選んだ生徒の理由の変化の例

2 考察

本研究の評価方法は、授業においてねらいとする価値項目の視点から、評価シートを活用し、選択番号や理由の変化から、生徒の内面の変容をみとろうするものである。したがって、評価シートの選択番号の変化が生徒の内面の変化とどのように関わっているのか、評価シートの理由の変化と併せて考察をする必要がある。場合によっては、授業のワークシートにおける生徒の感想等も参考にする必要がある。また、今回の授業では、主題が「よりよい社会をめざして」という大きなテーマであるために、生徒がどれだけ社会の問題を自分自身のこととしてとらえることができるか（他律的な見方から自律的な見方へと視点が変化したか）という点が評価シートをみとる際の重要な視点になる。これらのことを押さえた上で評価シートの結果の考察を行いたい。

表1・2の結果から、ほとんどの生徒が授業を受けることによって、授業前よりも望ましい方向に向かっていていると言える。特に、授業前、評価シートで(4)・(5)を選択し、場面で挙げた問題に関してほとんど関心を示さなかった4人の生徒中3人が、授業後(1)や(2)を選択し、思考の深まりが見られた。これを受け、今後、3人の成長を評価するような声かけを担任として行っていくという事後指導の手段も見えてきた。また、授業前後ともに(5)を選択した生徒(1人)は、ワークシートで「社会の問題について私には何もできない。だけど、そんな自分が情けない」と述べていることから、自分自身のこととして問題をとらえていることが分かった。このことから、今後は学級の中でやりがいを見つけられるような仕事や役割等を意識的に行わせることによって、自信をつけさせていきたいと考える。このように、「評価と指導の一体化」という点から評価結果を見れば、道徳の授業での内面の変容や現状を把握することによって生徒個々に対する事後指導の手だてをはかることができると言えるだろう。

次に、図7の結果から、授業後、「自分」という表現を用いて理由を書いている生徒が多く見られ、生徒の思考が他律から自律へと変化していることが分かる。図8では、選択番号の変化では、授業後、望ましくない方向へ変化した生徒であるが、理由について考察すると、図10のような2つのとらえ方ができる。

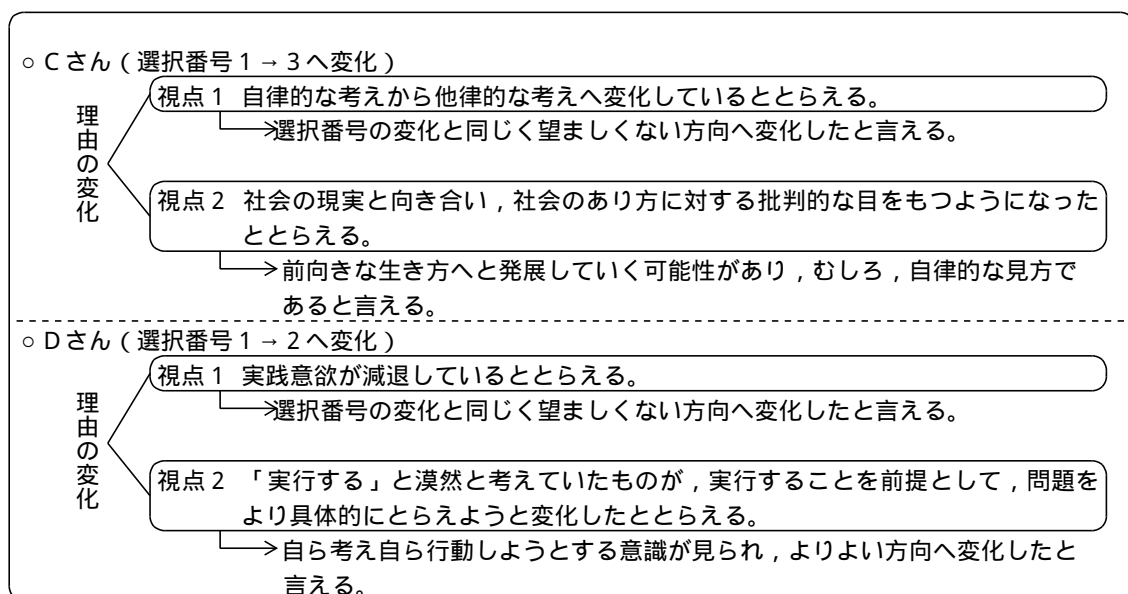


図10 選択番号が望ましくない方向へ変化した生徒の理由の変化のとらえ

このように、この2人の生徒に関しては、授業後に「他律的な考えから自律的な考え」へと変化しているかどうかをみとるのは困難であった（ワークシートの書き込みからもみとることができなかった）。図9でとりあげた生徒にも同様なことがあてはまり、今後、さらに評価を積み重ねて、それを分析し、みとる必要がある。このことから、評価シートの選択番号の変化だけを見るのではなく、理由の変化をみとることがとても大切であり、年間を通して評価を積み重ねていくことが必要であると言える。

これらの結果から、評価シートを活用した評価を行うことにより、生徒の内面の変化の状況を見ることが可能であると言える。また、本研究で示した評価シートで評価を行い、それを個人記録簿へ記入していくことによって、生徒一人一人の道德性の全体像をとらえることができると考える。そして、この方法が定着すれば、授業の評価による生徒の全人格的なとらえを、他の教育活動の場で有効に生かすことが可能であろう。

研究の成果と課題

1 成果

本研究では、授業におけるねらいの達成度をみとるための評価ではなく、授業でねらいとする価値に対して、生徒の内面が授業後どのように変容したかをみとるための評価方法を確立することを目的としている。価値項目の異なる授業を4度ほど行い、同様の方法で評価を行ったところ、いずれも授業後の生徒の変容をみとることができた。このようなことをふまえ、本研究における成果は以下のように挙げられる。

- (1) 評価シートで診断的評価を行うことによって、価値項目に対しての生徒の実態をとらえることができ、授業に生かすことができた。
- (2) 授業前後の評価シートの結果を比べることによって、授業による生徒の変容をとらえることができた。
- (3) 道德の授業の評価の積み重ねを記録できる個人記録簿を作成することができた。

2 課題

個人記録簿は作成したものの、年間を通した積み重ねが必要であるために、その活用については、今回は検証できていない。学習指導要領と照らし合わせても、道德の授業をつなぐりのあるものとしてとらえ、道德の授業の評価の積み重ねによって生徒の全体像をとらえるという視点は必要であると考え、このようなことをふまえ、課題を挙げると以下になる。

- (1) 生徒指導への個人記録簿の活用方法の確立。

《主な参考文献ならびに資料》

「中学校学習指導要領 解説 - 道德 - 」	文部省	財務省出版局	2001
「道德教育の基本原理」	金井 肇	第一法規	1992
「現代教育評価講座 7」	藤田昌士他編	第一法規	1978
「教育評価の考え方」	橋本重治他監修	図書文化	1977
「生徒指導と性格・行動・道德性の評価」	同 上	図書文化	1978